

平成30年度第1回社会・文化小部会議事録

日 時：平成30年8月16日（木）10:00～11:30

場 所：北海道庁本庁舎5階共用会議室

出席者：小内（純子）小部会長、荒川委員、大下委員、小内（透）委員、角委員、櫻井委員、中澤委員、羽深委員、林委員、吉岡委員

事務局：鶴原室長、中谷主幹、山本主事

1 開 会

2 自己紹介

3 議 事

- (1) 道史編さん体制について
- (2) 編さんスケジュールについて
- (3) 資料編の標準型及び構成参考例について
- (4) 資料編「社会・文化」構成案について
- (5) 新たな要綱の制定について
- (6) 道新記事見出しの採取について
- (7) 今後の予定について

4 閉 会

1 開 会

2 自己紹介

小部会長からの挨拶と各委員及び事務局からの自己紹介。

3 議 事

(1) 道史編さん体制について

小内小部会長から資料1を基に組織体制について説明。

(2) 編さんスケジュールについて

小内小部会長から資料2を基に刊行計画について説明。

→資料編（社会・教育・文化編）は2023年に刊行となり、それと平行して通史編を1ないし2巻執筆することになるが、当面はまず資料を集めることが主な作業となる。

(3) 資料編の標準型及び構成参考例について

事務局から資料3～5を基に説明。

(4) 資料編「社会・文化」構成案について

小内小部会長から資料6を基に、資料編の構成案と各委員の分担・分量割りについて説明。

→教育小部会との分量割りがまだ決まっていないので、とりあえず山口県史を基に1巻895ページとして、社会・文化が65%（教育35%）とすると、社会・文化小部会では580ページを担当することになる。

また山口県史を基にすると資料1件あたり平均で78行（2.3ページ）使うことになるので、その場合、各自が担当する資料数・頁数の目安として資料6の表のとおり仮置きした。各自の分量について、修正意見等を出してほしい。

（特に意見はなく、提案のとおり了承）

(5) 新たな要綱の制定について

事務局から資料7と8を基に調査に必要な要綱を制定したことの報告と、その内容についての説明。

【角委員】 調査に行く場合は、何日前までに事務局に伝えればいいのか。

【事務局】 資料保存機関は前日でも可。各団体や個人、道庁の各部署の調査は、事前にスケジュール調整や文書での依頼などが出てくるので、ある程度余裕を持って言ってほしい。

【林委員】 調査研究協力委員は、部会に出席できるのか、また刊行された道史に名前は載るのか。

【事務局】部会への出席は、部会長（小部会長）の判断となる。また一般的には調査研究協力委員の方も名前が載ることが多い。

【荒川委員】調査研究協力委員を任命するルールはあるのか。

【事務局】学識者の中から任命することになり、大学院生は対象外。

【林委員】調査に協力していただいた方に対して、謝金は支払えるのか。

【事務局】無償で協力してもらうことが基本だが、できるかどうかは確認する。

【櫻井委員】資料所蔵先へのスケジュール調整もやってもらえるのか。所蔵先と事務局と委員間で日程調整した結果、日程が合わなかった場合は、委員単独で資料調査に行くことになるのか。

【事務局】スケジュール調整や事前の所蔵状況の聞き取りも事務局が行う。また場合によっては、委員の方に単独で調査に行っていただくこともある。なお調査に係る出張で大学に依頼文書が必要な場合は知らせてほしい。

(6) 道新記事見出しの採取について
事務局から資料9を基に説明。

(7) 今後の予定について

小内小部会長から資料10を基に今後のスケジュールについて説明。

→3ヶ月に1回をめぐり、集めた資料のリストが事務局から送られ、全員でそれを共有及び確認する。直近は11月末になる。2回目のリストの送付が2月末なので、その結果を踏まえて、2回目の小部会を3月に開催する。最終的に2020年3月末を第1次締め切りとしたい。

【角委員】資料は1件ずつ解説を入れることになるのか。調査で入手した資料は、こちらで精選してから事務局に送ればいいのか。また自分で既に所有している資料の場合は、出典を明記して事務局にそのまま送ればいいのか。

【小内小部会長】資料1件ずつに解説を入れるのではなく、資料のページの前に導入部の解説が入るかたちになる。

【事務局】資料は、事務局でカメラ撮影したものを出力、ファイリングし、一部は筆耕する。その中から先生方が掲載する資料を選ぶことになる。なお、お持ちの資料で使う予定のものがあれば、送ってほしい。

4 閉会

(了)